

## 平成28年度 附属学校研究支援・特色化にかかわる事業実施報告書

事業の名称	「附属ブランドの確立～発展的な学習等によるスーパー中学生の育成～」－『学び伸ばし・学び直しセミナー』事業の継続と一層の充実～附属生一人一人の「底力」をはぐくむ附属ならではのプロジェクト～
事業実施代表者名	附属旭川中学校長 安藤 秀俊
実施附属学校名	附属旭川中学校
事業内容 (実施内容について、1,000字程度で記述)	<p>今次の学校教育には、学習指導要領で示された学習内容及び事項を漏れ落ちなく指導することにとどまらず、それらの内容を生徒に確実に身に付けさせることが求められている。</p> <p>具体的には、基礎的な学習力の不足により学習内容を十分に理解できない生徒への適切な対応や、傷病等により欠席していた分の学習サポートを確実に実施することが大切である。</p> <p>また、「地域のモデル校」として、附属学校には、変化の激しい社会の中でも生き抜くための資質や能力として、自らを主体的に高めていく志を高めることが重要であると考え、本校では、これまでも生徒が柔軟に時間を取り扱うことができる放課後に、自らの課題を克服し、一層力を高める「セミナー」を実施してきた。本年度も本校では、原則として、毎週、活動予定のない、月・水・金曜日の放課後（～17:30）の時間を活用し、生徒の発展的な学習及び補充的な学習を支援する「セミナー」を実施した。</p> <p>1 発展的な学習サポートの実施</p> <p>各種検定試験（実用英語技能検定：英検、日本漢字能力検定：漢検、実用理科学能検定：理検、算数・数学思考力検定：数検の受験）受験などを目標として、国語科、数学科、理科、英語科（外国語）などの、教科で身に付けた学習内容を発展させる取組を実施した。</p> <p>2 補充的な学習サポートの実施</p> <p>生徒自身が教科の学習で十分に理解できなかった内容や、欠席時の振替、レポートや作文・作品作りなどで規定した時間内で終了・完了させることができなかった課題、単元テスト及び定着度診断テスト（本校の定期テスト）で、定着が不十分と認められた学習内容、または、生徒自身が定着や理解について不安があるとする学習及び内容について重点的に補充する取組を実施した。</p> <p>とりわけ英語科（外国語）の学習については、スタートとなる中学校第1学年における学習内容の定着が、その後の学習基盤となっていることから、基礎固めのための教材として市販テキストを活用し、授業とは異なる視点から学習すべき内容の確実な定着を図る取組を実施した。</p> <p>3 体力向上に係る取組の実施</p> <p>部活動が実施されない日時の中で希望者を募り実施した。本年度は、主として体力に不安のある生徒が受講し、体力向上に向けたポイント・運動・体づくりについて理解することができるよう支援した。</p>

<p>成果と課題 (活動の成果と課題について、500字程度で記述)</p>	<p>1 各種検定          ①英検 H27：92名→H28：128名          (準2級・2級合格者 H27：9名→H28：25名 ※H28第3回合格者未発表)          □理科検定 H27：0名→H28：6名          □思考力検定 H27：73名→H28：60名          □漢字検定 H27：64名→H28：81名(参考 附小H27：73名→H28：84名)</p> <p>2 全国学力・学習状況調査          全国平均との全教科で10ポイント以上上回っている。          (国A：+13.1, 国B：+19.2 数A：+25.3, 数B：+29.1)</p> <p>3 各種コンクール          生徒の負担を考慮し、①教科・学年で割り振りし応募するもの、②部活動で対応するもの、③任意に応募するものに分けて対応し、人権作文、税の標語・作文、環境地図、いじめ・ネットトラブル根絶標語・ポスターなどに多数応募した。</p> <p>4 セミナー満足度          セミナーに参加したほとんどの生徒及びその保護者が、次年度以降も放課後の時間を活用した「セミナー」を続けて欲しい。次年度も参加したいとしている。</p>
<p>今後の発展性 (残された課題の解決方策及び取組の方向性について、500字程度で記述)</p>	<p>1 生徒自身の「自らを高めようとする」意識を高めること          本事業のスタート当初、生徒は「補習に参加する」というネガティブなイメージをもっていたが、本年度は発展的な学習サポートの側面をより重視して実施したことにより、生徒自身が、「セミナー」の時間で、一層、自分を高めたいという主体性と積極性を発揮している姿が多く見られた。          相乗効果として、補充的な学習を行っている生徒も、高い目標を持って努力する生徒を目の当たりにすることにより、「自分もそうになりたい」「そのために必要なこと・すべきことをする」と自覚し、主体的に取り組むようになってきており、発展的な学習サポートを重視し、取組を進めることが重要であると考えている。          今後は、一層の意欲の喚起を目指して、各種検定等の合格結果を掲示するなど、生徒の頑張りが全校で確認できるように工夫する。</p> <p>2 今後、一層、育むことが求められる資質や能力に関すること          数年来、理数教育の重視が求められているが、本校でも毎年出場・参加している「科学の甲子園ジュニア大会」などをきっかけとして、思考力検定や理科検定、理数教育についても重視していくことを構想している。</p>
<p>事業の公表状況 (事業をHPで公開した場合、又は新聞等に掲載された場合、当該媒体名、掲載日等を記入)</p>	

(注) 当該事業に係る写真等の参考となる資料がある場合は、この事業報告書に添付すること。